

いちおし グルメ **ランサー(株)**

ケータリング

☎3480-5264 和泉本町1-10-5 受付時間=9時~18時 土・日曜・祝日休み(注文は3営業日前まで) ホームページhttp://www.lunser.jp/top.html

4月は入学や就職、引越などを祝う会食の機会が多い。最近人気が高まっているホームパーティーを手がけているのが、ケータリング専門のランサー(株)。同社では約90人の社員が調理や配達などの業務をこなしている。料理は一般的な和洋中からエスニック、デザートまで、注文に応じてなんでも作る。量も数人から100人以上まで応じており、予算は料理のみで1人前3,000円から5,000円が



50,000円のプランの例

手間いらずと人気、わが家で楽しむ本格料理

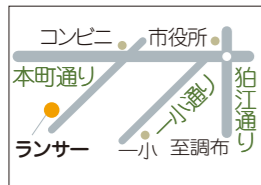
多く、25,000円から応じている。冠婚葬祭の料理や会社の昼食、高齢者の給食まで手がけているが、わが家で本格的な料理が手頃な価格で楽しめる

とあって、このところホームパーティーの注文が増えている。セッティングや後片付け、食器の手配などの手間がかからないことも人気の理由のひとつだ。社長の吉岡長利さん(72・写真右)は、元は証券マンだったが、独立して高級食器の会社を創業。展示用に食器

を飾る料理を頼んでいるうちに、自分で作るようになった。食べるのが好きだったこともあり、食器販売から料理人への転身を決意、アメリカンスクールのレストランをまかされるようになった。その一方、10年余りにわたりさまざまな料理の店や会社で腕を磨くとともにレシピを記録した。昭和60年に現在の会社を設立、学校給食を中心に手がけながら、ケータリング部門を充実させてきた。



パーティーの内容に合わせてレシピや盛り付けまですべて考える吉岡さんは「くつろいで、料理を楽しめるのがケータリングの良さ。お客様全員に喜んでいただけるよう、打ち合わせには念を入れていきます」と話している。



駅前の巨大絵手紙

狛江駅北口ロータリーの排気塔に中国の騎馬に乗った女性の置物を描いた高さ4m、幅3mの巨大な絵手紙が掲げられており「絵手紙発祥の地」のシンボルとなっている。これは、「絵手紙発祥の地—狛江」実行委員会が、市内

在住の絵手紙作家小池邦夫さんに依頼して製作、平成22年2月3日に披露された。この絵手紙には「動かなければ出会えない」の文言が添えられ、市民と行政が協働で動き出し、市外からも多くの人が訪れ、地域が活性化するようにという願いが込められている。祖師谷大蔵駅前のウルトラマン像をヒントにアイデアを考えた曾根嘉七委員長は「実現が難しかったが、遠方の絵手紙愛好家も見に来るようになり、絵手紙普及と狛江のPRの役目を大いに果たしている」と喜んでいる。



遠山弥生さん(東野川)

絵手紙の魅力「送る人への思いを込めながら絵手紙をかいています。先日、大学に合格した孫に『咲いた、咲いた』と言葉を添えた絵手紙を送ったら、お礼の言葉をもらい、喜びも二重、三重。『ヘタでいい、ヘタがいい』と唱えながら、急がずあせらず続けたいと思います」

ひらがれ絵手紙の輪

「狛江—絵手紙サポーター」から寄せられた絵手紙とコメントをご紹介します。問い合わせ☎3430-1111 狛江市地域活性化課市民文化係

綿羊飼育に挑戦した狛江中生



昭和29年に狛江中学校(現・狛江第一中学校)の4Hクラブで飼っていた綿羊とクラブ員。写真下は都の研究発表会の表彰状を手にするクラブ員。

4HクラブはHead、Heart、Hands、Healthの頭文字をとったもので、19世紀末に農業の向上をめざしアメリカで始まった青少年のクラブ活動組織。

日本では23年に農業・生活改良普及事業として始まった。27年に狛江中学に入学した小町達男さん(71)によると、進駐軍の通訳をしていた先輩の保護者から4Hクラブの話聞き、25、6年に部活動が始まっ



たという。当時は、在校生の大半の家が農家だったため部員も多く、現在の市民グラウンドに農場を造り、サツマイモなど栽培していた。小町さんらは、学校近くの農家から綿羊を譲り受けて飼育を始めた。自分たちで飼育小屋を作り、和ばさみで毛を刈り、農家に頼んで毛糸にしようなど熱心に取り組んだ。狛江中の4Hクラブは、東京都経済局の研究発表会に出場、28年には女子部員が鶏の飼育の調査記録で、29年は小町さんの綿羊飼育の発表で、30年は毛塚勝さん(故人)の鶏の産卵の調査研究で3年連続優勝を果たした。取材・写真協力=小町達男さん



冬眠から目覚めたアカガエル

とんぼ池公園(前原公園)は外周に雑木林、中央に広場、東になだらかな小山、小さな2つの池がある近隣公園で、また草を伸ばしっぱなしの原っぱもある。園内では、いつも子どもたちが楽しそうに走り回って遊んでいる。

樹木の冬芽が日ごとに膨らんで目立つようになり、雑木林は褐色から薄い緑色へと次第に変えながら春の装いを調える。朝日を受けた林の景色は美しい。

池の底の泥や木の葉の中では水がぬるむにつれてトンボの幼虫ヤゴがそろそろと動き出す。初夏には羽化してトンボが飛び立つのが



飛べとんぼ 前原公園の四季

見られる。2月中旬ごろにはアカガエルの卵の塊も見られ、3月にはオタマジャクシが春の訪れを告げる。

腐食土の中ではカブトムシの幼虫も、じっと春の到来を待ちわびている。

園内では春から初冬にかけていつでも花が咲き、果実が見られる。

春、一番先に花が咲く木はハンノキ。2月からマンサクとウメ、ハクモクレン、コブシ、コナラ、クヌギといろいろな花が続く。5月にはホオノキが大きな花を開かせる。

秋にはクヌギやコナラのドングリが実り、拾い集める子の姿も目立つ。

とんぼの会=文・山本八郎、写真・斉田靖匡 新連載=西野川3丁目にある前原公園の四季折々の自然の姿を紹介します。